

## レベル II 胎児心臓超音波検査 オンライン多施設間全国登録について

日本胎児心臓病学会 総務委員会 1)

長野県立こども病院 循環器小児科 2)、三重大学産婦人科 3)、徳島大学産婦人科 4)、豊中市民病院小児科 5)、大阪市立総合医療センター 小児循環器科 6)、近畿大学小児科 7)

瀧間淨宏 1), 2)、池田智明 1), 3)、武井黄太 1), 2)、加地剛 1), 4)、河津由紀子 1), 5)、川崎有希子 1), 6)、稻村昇 1), 7)

【目的】学会が主体となって行っているレベル II 胎児心臓超音波検査の多施設間オンライン登録を解析、報告する。【対象と方法】2004年10月1日より2019年12月31日に登録されたレベル (II) 胎児心臓超音波検査 70166 件。全 89 施設。うち胎児心臓専門施設 は 59 施設。経年変化数、各県の登録数、疾患分類別の検査割合等を調べて解析した。【結果】経年的に登録は増加、2009 年頃まで 1500-2000 件前後だったものが近年は 10000 件に登り (2019 年は 11833 件)、疾患分類では先天性心疾患が 26961 件 38%、正常が 20844 件 35%、不整脈が 3606 件 5%、心外異常 7293 件 10%で経的には先天性心疾患の割合がやや減少した。各県の登録数は、大都市圏の東京、大阪、神奈川、そして長野、福岡が上位で 10968、8296、5751、3331(神奈川、長野は同数)件であった。先天性心疾患の内訳では、VSD4773 件、SRV1725 件、SLV 363 件、DORV2871 件、HLHS2259 件、AVSD2343 件、TOF2610 件で、四腔断面の異常を示すものが多のが特徴であった。しかし、dTGA1503 件(5.5%)、Simple CoA996 件、IAA479 件と診断が難しいとされるものでは少なく、TAPVC は先天性心疾患の 334 件(1.2%)であった。経的に dTGA, CoA の件数は増加、TAPVC の横ばいは変わらない。不整脈については PAC13339 件、完全房室ブロック 397 件等であった。【結語】胎児オンライン登録は認証医制度設立以降、著明な増加している。レベル II 胎児登録の維持を継続するとともに検査の質の向上を目指す必要がある。